

～ 今米の屋敷林と鎮守の森を訪ねるコース ～

① 川中邸

川中邸は、自然的環境と歴史的環境が一体化して成り立っています。主屋は、江戸時代に建てられ、離れは大正時代に建てられたものです。

屋号は、美杜里乃屋「みどりのや」と称し、四季に渡り木々が青々と茂っている屋敷の情景から、江戸時代に藤井高直(国学者)によってつけられました。

大和川付替えに功勞のあった「中甚兵衛」ゆかりの地です。付替時の大和川流域を描いた「河内扇」や幕府役人と甚兵衛を描いた「大和川付替え成就御礼之図」、古文書などの貴重な資料が伝わっています。2006年に、主屋と北側の離れ座敷は、国の登録有形文化財に指定されました。

屋敷林

屋敷林は、江戸時代から長い年月、木々の交替を繰り返しながら存続してきました。かつては、燃料や堆肥などの供給源として、生活と密着しており、防風林・防火林などの大切な役割もはたしていました。一部は食用や鑑賞用であり、季節により、風情のあるさまざまな風景を楽しむことができました。1984年には、大阪で初めて屋敷林が特別緑地保全地区に指定されました。先人が残した歴史のある、緑豊かなこの地を活用し、貴重な財産を次の世代に受け継がれる様に活動しています。

② 中甚兵衛顕彰碑

中甚兵衛を顕彰する石碑は吉田駅の北100m程の今米公園内にあり、大正4年に建てられたものです。中甚兵衛は、河内平野を流れて度々水害をひきおこしていた大和川の流れを柏原からまっすぐ西に付替えるよう、50年近く幕府に訴え続け、付替え決定に尽力した人物です

③ 緩衝緑地公園

大気の汚染、水質の汚濁などによる産業公害を防止または緩和し、地域の生活環境の改善を図ることを目的に、居住地域と工業地域との間に設置された緑地公園です。

④ 諏訪神社

中新開の氏神である諏訪神社には、本殿内にのこされていた古文書によって、天文元年(1532年)に信濃国諏訪の住人諏訪連の子孫らが当地に村を開き、本村守護のため三社を建立したことが記されています。三社とは、諏訪大明神、稲荷大明神、筑羽大権現のことです。現在、諏訪大明神だけが残っています。本殿の調査から、大別して二時代の部材を認めることが出来ます。一つは、室町時代末期、他の一つは、江戸時代初期のものと推定されます。

⑤ 吉原地蔵尊と元旦の祝いは「ぜんざい」のいわれ

吉原地蔵石仏は『西光寺』というお寺の門脇にある、地蔵堂の中にあります。吉原地蔵石仏については、「昔近くの川底から引き上げられた」という、言い伝えがあるそうですが、定かではないようです。花崗岩の自然石に舟形光背を付け、蓮華座の上に立って右手に錫杖、左手に宝珠を持つ地蔵立像を厚肉彫りしたもの。市内で最も大きい石仏総高2m、像高1.7m)で河内地方でも一番ではないかといわれています。このような石仏は、鎌倉時代の元徳2年(1330年)の銘のある、阿弥陀如来像を刻んだ磨崖仏(奈良市田原)が知られています。この地蔵石仏には銘がないが、この石仏も室町時代初期の石造彫刻と考えられ、大阪府の有形文化財に指定(昭

和45年12月7日)されている。地蔵堂の前には、寛延3年(1750年)の銘の地蔵常夜燈と安政5年(1858年)の銘のある線香立ての基壇部分が残されています。

ここ吉原ではお正月に雑煮でなくてぜんざいでお祝いをする家が多い。そのいわれは、地元の言い伝えによると、実はこの地蔵さんが盗まれたことがあったそうで、享保12年(1727年)、村人によって近くの川中にあった地蔵さんを引き上げ、元に戻されました。それ以来、正月の祝い善に関西では大変珍しいぜんざいを食べることが定着し、今では伝統的な行事になっています。

⑥水路の交差点(藤五郎樋)

大和川付替以前新開池の南東隅にあたり多くの村の井路が合流しており、付替後も水路を交差させたところもたくさんあります。大坂天満八軒家から寝屋川を通り、徳庵で六郷井路(寛文元年<1661)新開池内に掘られた六郷地域の排水路で新田開発され鴻池新田として生まれ変わり、新しく水路が縦横に掘られましたが、これらの水路に接続されることなく現在まで昔の姿をとどめています。)に入って、ここまで乗合の船の定期便がありました。荷物を積んできた剣先船は、ここで樋門により水の高さを調節し各村の井路を通して荷物を運びました。

⑦栗原神社

吉原の字北の宮という地にあつて『延喜式』神名帳に載せられている古社で、中臣雷大神命、水分神、天児屋命、品陀別命の4神を祀っています。大正4年に今米の春日神社、中新開の諏訪神社の2社を合祀しています。別名梶原宮とも言われています。

⑧長者橋

古箕輪八幡宮の東側にある長者橋の付近は、大和川付替え以前、新開池の南東隅にあたり、付替え後は鴻池新田の東端となったところ です。長者とは鴻池家のことを指しています。ここに各村から井路が集まり、交差しているところが今も残っています。大阪天満から寝屋川を通り、徳庵で乗り換え五箇井路に入り、ここまで乗合船の定期便がありました。

⑨古箕輪八幡宮

もと箕輪村に含まれる古箕輪は、新開池の南東に位置し、大和川付替え以前は池の深草を刈り、魚を捕って生活していた漁村でした。新田開発後は農村となりましたが、南方の村々の悪水で例年作付けに水難を受けるため、踏車を使って悪水を排水し、また天水場であるため日照りの時には干害にみまわれたといわれています。氏神である八幡宮は、創建は不明ですが、本殿は一間(いっけん)社流造柿葺(しゃながれづくりこけらぶぎ)で江戸時代中期の建築とみられ、また境内の鳥居(みどり)に寛保元年(1741年)の銘があり、拝殿前の燈籠に明和元年(1764年)の銘があることから、新田が開発された後に、神社が整備されたことがわかります。拝殿には幕末から明治初めに奉納された元寇、神功皇后朝鮮出兵図、江戸時代の風俗図、天皇に將軍・御三家等が供をした加茂明神参詣図などの明彩な絵馬が残されています。また、正面左にある燈籠は、天保二年(1831年)銘の「おかげ燈籠」です。竿に「おかげ」と刻むこの燈籠は、江戸時代に伊勢参宮が流行しほぼ60年毎に「おかげ参り」と呼ばれる集団参宮が行われた際に、村人達が神恩を感謝して奉納したものです。

⑩六郷神社

明治39年の神社整理令により、春日神社(横枕)、日吉神社(中野)と本庄・箕輪・古箕輪の八幡神社の五社は、本庄の八幡神社に合祀されて六郷神社となりましたが、昭和20年代に各神社は旧地に復社されました。標石に「元八幡・六郷神社」とあります。覆屋(おおいや)内の一間社流れ造り(いっけんしゃながれづくり)、銅板葺の本殿は江戸時代の建物で、応神天皇をまつています。

⑪浄福寺

浄土真宗本願寺派、本尊は阿弥陀仏です。元禄15年、京仏師勧尊作の銘があります。天正3年(1575年)開基といわれています。11月の報恩講は、本庄のほんこんさんと親しまれています。

⑫日吉神社

日吉神社は、江戸時代以前には現在の高倉墓地のところにあったと伝えられ、もと大山咋命(おおやまくいのみこと)をまつています。安産の御守札を出していて、村中で難産する人はいなかったということです。

⑬横枕春日神社

横枕春日神社が創建された年代は不詳ですが、横枕村は江戸時代の中頃まで旧大和川支流(菱江川)に面し、再三の洪水に悩ま

されたため、この神社を祀ったとされています。

⑭おかげ燈籠

かげ燈籠は、「おかげ」などおかげ参りに関連する銘文をもつ燈籠として知られています。慶安3年(1650年)以降ほぼ60年周期で、集団で伊勢神宮に参詣する現象をお蔭参りと称しており、お蔭参りの講に結縁した人々によって、村の境界や鎮守の森に建てられた燈籠を「お蔭燈籠」と呼びます。正面に「太神宮」「おかげ」と陰刻されています。旧村には民間信仰の形態として、講(神仏を祭る団体)が残るところがあります。その中でも、伊勢講は、伊勢神宮を信仰するために室町時代の初め頃から各地に成立しはじめました。講は、年に1回から数回当番の家(当家)に集まり、掛軸を掛けて祭を行い、その後酒宴を催していました。そして、費用を貯め代参(他人に代わって神仏に参詣すること)を立てて伊勢神宮に参拝しています。

河内街道

横枕から北東に中野・古箕輪に向かう道は、「河内街道」と呼ばれています。枚方市伊加賀で国道1号線(京街道)から分かれ、現在まで昔の寝屋川、四条畷、大東、東大阪の市域を通過してJ R八尾駅までの道です。古い村々をつないでいて、昔からの寺社が点在しています。河内街道と呼ばれるようになったのは明治時代からです。

～東大阪まち歩きのご案内～

東大阪市内には石切劔箭神社や枚岡神社などの神社仏閣だけでなく、司馬遼太郎記念館や田辺聖子文学館などの文化施設、また市内の駅には賑わう商店街など多くの資源が存在します。地図を片手にご自身のペースで歩いて歴史や町並みをじっくり楽しんでみてはいかがでしょうか。

まち歩きコース

日下・石切周辺 文学散歩	近鉄石切～新石切駅周辺
帝キネが愛した東大阪	近鉄永和～河内小阪～八戸ノ里駅周辺
生駒西麓 里山コース	近鉄枚岡～石切駅周辺
ラグビーのまち東大阪	近鉄東花園～河内花園駅周辺
枚岡～額田周辺散策 枚岡神社秋祭り太鼓台で楽しむ	近鉄枚岡～額田駅周辺
瓢箪山周辺 いにしへの息吹を感じる	近鉄瓢箪山駅周辺
今米の屋敷林と鎮守の森を訪ねる	近鉄吉田～荒本駅周辺
若江岩田周辺 天下分け目の地をゆく	近鉄若江岩田駅周辺
西堤～御厨 古代からの歴史の移りかわりを見る	JR高井田中央～近鉄八戸ノ里駅周辺
JAZZのまち鴻池散歩 鴻池新田会所周辺	JR鴻池新田駅周辺
えべっさんの街 布施商店街周辺	近鉄布施駅周辺

東大阪まちガイドボランティアの派遣

条件:利用は10名以上の団体、1回につき2～3時間程度
費用:10～14名の場合はお一人あたり200円(資料代)、15名以上の場合は団体で3000円
※入館料・保険料は含まれません。
※まち歩きガイドは限られた人数で対応いたしますので、ご希望に添えない場合があります。

東大阪まちガイドボランティア“ちょこボラ”募集!

東大阪のまちに関心のあるちょこっとボランティアをしたいと思っておられる方、どなたでもご参加できます。随時募集しておりますので、お気軽にご相談ください。

2020年3月現在

お問合せ先

東大阪観光協会

〒577-8521 東大阪市荒本北1丁目1番1号
Tel：06-4309-3230 Fax：06-4309-3846

